

ベストクラス候補選定理由書

作成者：新濱 由梨、藤島 千絵、辻 留奈、浅海 真弓、岡田 雅弘

科目名称 初等社会 I (小 C (大学院) クラス)		(担当教員名：關 浩和)
課程 : 学部	開講時期 : 前期	
授業形態 : 講義	授業規模 : 30 人以下	
インタビュー対象教員名 關 浩和 (実施日時：令和元年 7 月 30 日 16 : 40~17 : 30 ; 実施場所：総合研究棟 3 階中会議室)		
インタビュー対象受講者名 川上 貴行、進藤 功充、秦 七海、谷川 智美、寺内 凌 (実施日時：令和元年 7 月 30 日 16 : 40~17 : 30 ; 実施場所：総合研究棟 3 階中会議室)		
選定理由		
【教員へのインタビュー】		
<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の第 3 学年から第 6 学年までの社会における授業の内容や単元についての構成等を学び、より実践的な授業の仕方を理解するという目的がある。 ● 受講生は教員になりたいという思いがとても強く講義に積極的に参加し、また受講生は様々なキャリアや経歴を持っておりそれらを授業に活かしながら知識を獲得しようと取り組んでいる。より具体的で分かりやすく受講生に教えようと工夫した。 ● 社会科を知識を詰め込む授業としてではなく子どもに興味を持たせて子どもが自ら積極的に知識を獲得するような授業を展開することが重要であると考え、それを意識して授業を展開した。 ● リフレクションカードを毎回受講生に書いてもらい、受講生とのコミュニケーションをはかると共に授業の振り返りをするを身に付けてもらう目的で行っている。 		
【受講生へのインタビュー】		
<ul style="list-style-type: none"> ● この授業を通して教材研究や身近にある素材を加工すること、授業の展開の仕方など、教員としての知識や視点といった現場で活かされるものが多く得られた。 ● 歴史分野で蹴鞠を教えるとなったとき、蹴鞠の説明だけでなく見ている人々や時代背景も学ぶことで学びが深くなるということと、教材は今ある教科書を詳しく学ぶことが大切だと学んだ。 ● この授業を受けた後、今まで気に留めなかった都道府県章や市町村章などの身近なものに興味湧き、現場で子どもたちにどういう意味なのだろうと考えさせたいと思うようになった。 ● 一見社会科以外の内容のように見えるものから授業に入り、そこから社会科で学んでほしいところまで繋げる手法に驚いて真似したいと思った。 		
【総括】		
<p>教員の知識量の多さや身近な事象を社会科目に関連付けた分かりやすい授業を展開することで受講生の社会科目に対する概念を崩し、新たな見方・考え方を与えていた。教材研究の重要さはもちろん、特別な教材でなく今ある教科書や身の回りのものを教材として深く学ぶことの大切さを教え、受講生がより実践的で現場に活かせるような知識が得られる授業であった。そして教員だけでなく受講生も意欲的に参加したことが授業の質を向上させることにも繋がっている。以上のことからベストクラス選定候補としてふさわしい授業であると考えられるためこの科目を推薦する。</p>		